

# アセスメント・データを教員に役立つものにするには —アセスメントに向けたスペシャリストと教員の協働—

S. ジーン・ホースト & ブライアン・C. レヴェンソール

2018年7月5日(木) 17:30 - 19:30

京都大学吉田南1号館 201号室

高等教育において、アセスメント・スペシャリストには、大学運営側と教員のニーズのギャップに橋渡しをするという役割があります。機関・プログラムレベルのアカウンタビリティを果たすために、大規模アセスメントのデータが収集されますが、教員はそんなデータは自分には関係ないと感じることが少なくありません。教員が、学生の学習を改善する上で大規模アセスメントから有益な情報を得られるようにするには、アセスメント・スペシャリストは教員とどう協働しどんな支援を行えばよいのでしょうか。ジェームズ・マディソン大学のいくつかの例をお示しし、議論したいと思います。

**S. ジーン・ホースト (S. Jeanne Horst)** : ジェームズ・マディソン大学 CARS (Center for Assessment and Research Studies) のアソシエイト・アセスメント・スペシャリスト。大学院心理学専攻の准教授も務める。JMU で、一般教育および学生支援プログラムのアセスメントのコンサルテーションを担当。

**ブライアン・C. レヴェンソール (Brian C Leventhal)** : ジェームズ・マディソン大学 CARS のアシスタント・アセスメント・スペシャリスト。大学院心理学専攻の助教も務める。JMU で、一般教育および教学プログラムのアセスメントのコンサルテーションを担当。

## 【使用言語等】

- ・英語(一部逐次通訳あり) / 無料 / 定員 15 名(先着順)

## 【申込み】

- ・7月3日(火)までに、550center@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp あてメールでお申し込みください(件名「7/5ワークショップ希望」とし、お名前・ご所属・お役職をお知らせください)

## 【主催】

- ・日本学術振興会・課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業「人文・社会科学教育の内容と方法のイノベーションに関する国際比較研究」(研究代表者: 佐藤学、グループリーダー: 松下佳代)
- ・九州大学基幹教育院次世代型大学教育開発センター(担当者: 深堀聰子)



九州大学基幹教育院  
Faculty of Arts and Science, Kyushu University